

K00U研究支援人材の資質向上WG/研究データ管理・活用WG合同ワークショップ資料（2025）

九州大学附属図書館

九州大学データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門

<https://hdl.handle.net/2324/7440576>

出版情報：2025-12-11
バージョン：
権利関係：





研究支援人材の資質向上WG／研究データ管理・利活用WG 合同ワークショップ @大分

2025.12.11-12

スケジュール (1日目 12/11)

13:00-13:10	開会 柴田洋孝(大分大学 理事・副学長)
13:10-13:20(10分)	趣旨説明 西田洋輔(九州大学 研究・産学官連携推進部 研究企画課長)
13:20-13:50(30分)	講義 「研究データ管理(RDM)の基本と重要性について」 石田栄美(九州大学データ駆動イノベーション推進本部 教授)
13:50-15:40(110分)	グループ討議(1) DMPを手がかりに研究サイクルにおける研究者に必要な支援を考える
(休憩 20分)	
16:00-16:30(30分)	発表・共有
16:30-16:50(20分)	事例紹介 「“公開したくなる”研究データ支援:米国大学事例報告」 兵藤健志(九州大学附属図書館eリソース課 図書館専門員)
16:50-17:00(10分)	事務連絡・終了

スケジュール（2日目 12/12）

8:45	受付
9:00-10:00(60分)	講演 加藤博一(奈良先端科学技術大学院大学 理事・副学長)
10:00-11:40(100分)	グループ討議 A:データ公開までのプロセス B:研究者への啓発・意識醸成
11:40-12:10(30分)	発表・共有
12:10-12:30(20分)	まとめ・閉会あいさつ

趣旨説明

九州大学 研究・産学官連携推進部 研究企画課長 西田洋輔

研究支援人材の資質向上WG

KOOUの設置目的である「研究支援人材の資質向上」を踏まえ、令和5年度から活動を開始

■ 目的

KOOU参加大学の研究支援人材(URA等)の資質向上に関し、連携協力事項に係る取組を推進することで、九州・沖縄地域全体の研究力を強化し、社会課題の解決、経済の発展、人材育成に貢献する

■ 体制

- ・ WG:研究支援人材の資質向上に係る取り組みの推進及び本WGの活動についての議論を行う理事又はその代理を務める者…10大学10名
- ・ URA等交流会検討会合:URA等の資質向上に向けた交流会・情報交換等の開催に際し、企画運営を行う研究支援業務に従事する教職員(教員、URA、事務職員等)…10大学18名

■ これまでの活動

- ・ 2024年5月:オンラインにてURA等交流会・情報交換会を開催
- ・ 2024年10月:第10回RA協議会年次総会にて、本WGの取組の一環としてネットワーキングセッションを開催
- ・ 2025年7月:九州大学にて、AI技術を活用した外部資金獲得をテーマに合同研修を開催

■ 問題意識

- ・ KOOU参画大学が抱える事情は様々であるが、研究支援人材の獲得と育成は共通した課題
- ・ 大学間連携、産学官連携が求められる事業等が増加する中で、研究支援人材の役割も多角化しており、大学の枠を越えた人材育成の在り方が課題

研究データ管理・利活用WG

九州大学が九州地区の拠点大学として、国立情報学研究所から「研究データ管理スタートアップ支援事業」を受託。活動の枠組みとして、KOOU内に同WGを設置

■ 目的

KOOU参加大学の研究データ管理・利活用に係る取り組みを推進することで、九州・沖縄地域全体の研究力を強化し、社会課題の解決、経済の発展、人材育成に貢献する

■ 体制

- ・ WG:研究データの管理・利活用に係る取り組みの推進及び本WGの活動についての議論を行う理事又はその代理を務める者・・・10大学10名
- ・ 推進連絡会:研究データ管理・利活用に係る実質的な情報交換や議論、各種活動を行う研究データ管理・利活用の業務に従事する教職員(教員、URA、事務職員等)・・・10大学21名

■ これまでの活動

- ・ 2024年11月:福岡にて情報交換会を開催(9大学28名参加)
- ・ 2025年2月:沖縄でのRDMスタートアップワークショップを開催(9大学+オブザーバ等:37名参加)

■ 問題意識

- ・ 研究データ管理の支援には、学内の様々な部署の関与が求められるが、具体的にどのように連携して進めればよいか模索中という大学が多い
- ・ オープンサイエンス推進の政策の下、大学も研究者もその重要性は認識しているが、優先度が低い、十分に理解されていないように見受けられる。忙しい教員に更なる負荷がかかるというイメージが先行している感もあり

背景とねらい

■背景

- 国の施策として、研究成果の公開が義務化されるなど、研究データ管理の在り方に大きな変化が生じている
- 研究成果の公開によって、次の新たな研究が生み出される可能性が広がる一方で、研究インテグリティの問題など、研究成果の公開に伴う課題もある

■合同開催のねらい

- 研究データ管理で生じる課題について、具体的事例・テーマを用いつつ議論を行い、各大学の好事例の共有や、今後の取組について意見交換を実施
- ポストアワードにおける研究データ管理を通じて、新たな研究につなげるための取組や課題等について各大学の好事例の共有や、今後の取組について意見交換を実施
- 研究支援に携わる様々な部署の担当者が一堂に会することで、お互いの問題意識や視点を共有し、学内連携の活性化を図る

研究データ管理に係る政策等

外部

G8科学大臣及びアカデミー
会長会合
(2013)

科学研究データのオープン
化を確約

「研究データの権利に関する
ソルボンヌ宣言」にRU11が署名

研究データの権利に関するサミット(2020.1)

- 研究データは、可能な限りオープンに共有され、再利用されるべき
- 私たちの大学とその研究者が可能な限りデータを共有することを奨励する

UNESCO「オープンサイエンス
に関する勧告」を採択

(2021.11.25)

オープンサイエンスの定義、
国際的基準の概要を示し、OS
運用を実現する一連の行動を
提案

G7広島 首脳コミュニケ
科学技术大臣コミュニケ

(2023.5)

「1. 科学研究における自由と包摂
性の尊重及びオープン・サイエ
ンスの推進」

- FAIR原則 に沿った、科学的知識・
研究データ・研究成果の公平な普
及によるOSの拡大
- 学術出版物及び科学データへの即
時のオープンで公共的なアクセス
- OSの実践にインセンティブと報酬
を与える研究評価アプローチ

内閣府

第6期科学技術・イノベーション基本計画(2021.3閣議決定)

オープンサイエンス推進のための、研究データの管理・利活用を目標・指標に掲げる

- 公募型の研究資金の新規公募分において、2023年度までに、DMPおよびこれと連動したメ
タデータの付与を行う仕組みの導入率100%
- 2025年までに、データポリシーの策定率100%

統合イノベーション戦略2021 (2021.6閣議決定)

公的資金による研究データの管理・利活用に関
する基本的な考え方(2021.4決定)

基本計画を受けて、具体的な取組方針を策定

2024年度科研費から
全種目で、交付申請時に
DMP作成が義務化

「学術論文等の即時オープ
ンアクセスの実現に向けた
基本方針」(2024.2統合イノベ
ーション戦略推進会議決定)

- 学術論文及び根拠データの即時OA

文科省・関係団体

学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)
文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会(2016.2)

- 論文及び論文のエビデンスとしての研究
データは原則公開
- 国・大学等・学協会・助成機関等に求め
られる役割を提示

学術機関における研究データ管理に関する提言(2019.5)
大学における研究データポリシー策定のためのガイド
ライン(2021.7) 大学ICT推進協議会(AXIES)

提言：オープンサイエンスの深化と推進に向けて
日本学術会議オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委
員会(2020.6)

オープンサイエ
ンス時代における大
学図書館の在り方
について(審議まとめ)
文部科学省 科学技
術・学術審議会情報
委員会(2023.1)

オープンサイエンスの推進

オープンサイエンス = オープンアクセス + オープンデータ



知の創出、新たな価値



研究プロセスの透明化

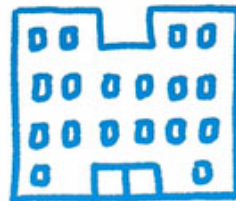


研究成果の幅広い活用

オープンイノベーション



国



資金配分機関



大学・研究機関



研究者

オープンサイエンスの推進体制の構築

研究データ管理において、大学に求められる役割・責務

■ データポリシーの策定

- 2025年度までにデータポリシーを策定する
- 特に公開・共有の基準については、研究者が判断に迷わないよう具体的に定めることが望ましい

■ 機関リポジトリへの研究データの収載と研究データへのメタデータの付与の推進

- 機関による管理対象データへのメタデータ付与、研究者によるリポジトリへのデータ収載

■ 研究データマネジメント人材・支援体制の整備及び評価

- 研究者がデータポリシー等に則って研究データ管理を行うための環境や支援体制等の整備
- 研究データマネジメント人材の育成・確保
- 研究データの管理・利活用に対する各部署における役割の明確化、身近に相談できる窓口の設置等
- 人材育成のための教育プログラム提供、評価体系導入

■ セキュリティの確保、関係諸法令の遵守等

- 信頼性の高いストレージの整備、継続的運用の保障
- 関係諸法令等との整合性のとれた機関リポジトリの整備

公的資金による研究データの管理・利活用に関する
基本的な考え方(内閣府 2021.4決定)

グループ討議

グループ討議

Day1 12/11PM

- テーマ: DMPを手がかりに研究サイクルにおける研究者に必要な支援を考える

Day2 12/12AM

- テーマA: 研究データの公開プロセス

ケーススタディを通じて、公開の過程で考慮すべき法的・倫理的課題等を考える

- テーマB: 研究者への啓発・意識醸成

研究者が主体的に研究データの管理・利活用に取り組むようになるための支援を考える

グループ討議

参加者の心構えとして

- 否定しない・評価しない
- 答えを出すことではなく、理解を深める・他職種の視点から捉えることを主眼に
- 持ち帰るアウトプットは、「異なる視点」「支援や取り組みのアイディア」「学内連携」

アイスブレイク

- 自己紹介(氏名・所属・業務・関心ごとなど)

記録担当

- あらかじめ指定させていただきました
- ICレコーダーの録音操作、討議中の簡単な記録作成をお願いします
- 後日、九大においてAIを使ってまとめを作成しますので、その確認作業をお願いします

発表担当

- 各グループで、よいタイミングで決めてください

Day1:

DMPを手がかりに研究サイクルにおける研究者に必要な支援を考える

- 架空の2つの研究プロジェクトを用意しています。どちらから先にやっても構いません。
 - ① 炭素／光触媒複合粒子の調製および評価に関する共同研究プロジェクト
 - ② X大学工学部の「見えない学習」を見える化せよー工学部学生の学習行動分析プロジェクト
- 各プロジェクトのシナリオ、相関図、DMPたたき台、ワークシートを準備しています。
- 研究サイクルにおける、研究データのライフサイクルの各段階において、どのような点が問題になるか、どのように考え対応すればよいか、ポイントを押さえながらディスカッションしましょう。
- 進め方の例
 1. シナリオ・相関図の読み合わせ、内容理解
 2. DMPたたき台の読み合わせ、疑問等の出し合い
 3. ワークシートに基づき、データのライフサイクルに沿ってDMPとの関係を再確認しながら、問題になりそうな点、意見や疑問、気づき等を出し合う

達成目標:

- ・ 研究サイクルにおける研究データのライフサイクルを具体的にイメージできるようになる。
- ・ 次の研究への展開も意識しつつ、現プロジェクトのデータの管理や公開をどのように考えればよいか、研究者がどのような点に困りそうか、を理解し、支援のアイディアを持ち帰る。

注意点・備考:

- ・ 経済産業省のDMPをサンプルとして使用します。(今回のケーススタディには必ずしも内容的にそぐわないが、海外のDMPは詳しく、科研のDMPは簡潔過ぎるため、ワークのためのサンプルとして採用)

Day2-A

研究データの公開プロセス ケーススタディを通じて、公開の過程で考慮すべき法的・倫理的課題等を考える

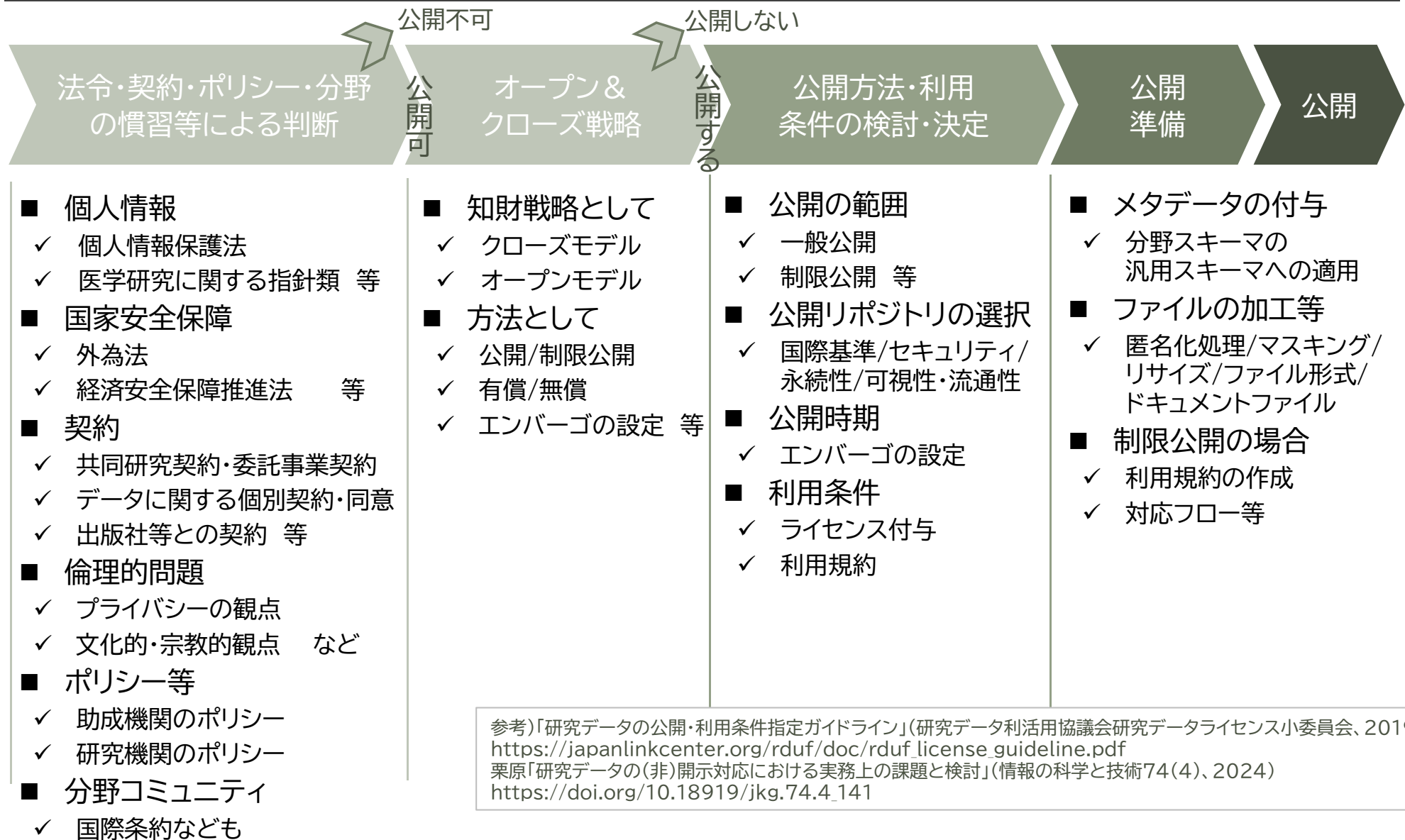
- 3つのケーススタディを用意しています。どの順番でやっても構いません。(すべてやる必要もありません)
- 各ケースのシナリオ・相関図を基に、フロー図と照らしながらディスカッションしましょう
 - ・ どのような点が問題となるか、公開/共有が可能か、公開/共有するにはどんな方法や範囲・条件が適当か、学内のどの部署に相談するのがよいか、など
- 進め方の例
 1. ワークシートの読み合わせ:内容(データの種類・関係者・公開目的等)の理解
 2. 各自、論点や疑問点、自身の考え等の書き出し
 3. グループで出し合い、ディスカッション (深める、広げる、選択肢を考える、などなど。ひとつにまとめる必要はない)

達成目標:

- ・ 研究データの公開を考える際のプロセスや選択肢を理解する
- ・ 研究データ公開について研究者から相談があった場合に、どんな点をヒアリングすべきか、どんな点に留意すべきか、どんな選択肢があり得るか、学内のだれに相談するとよいか、などを具体的にイメージできるようになる

Day2-A

研究データの公開プロセス ケーススタディを通じて、公開の過程で考慮すべき法的・倫理的課題等を考える



1. 伝統的発酵食品の微生物多様性データと地域ブランド

老舗の味噌蔵の味噌や漬物などの発酵食品について、微生物の種類や発酵条件などにより、おいしさとの関係を解析した。地域ブランドの継承や食品開発等にデータを活用してもらいたいが、蔵の主人は「蔵の味」という企業秘密がオープンになることには懸念がある。

2. Webスクレイピングで作成した日本語コーパスの取り扱い

日本語の文章を大量にネットから集めて、AIの勉強用データを作った。みんなに配って活用してもらいたいと思っているが、集めた文章には著作権や利用規約があるので、勝手に配ると問題になるかもしれない。

3. 被災地ドローンLiDAR点群データの社会公開

洪水のあと、ドローンで町の3Dデータを取った。復興や防災に役立つので早く公開したい。でも、家の形や避難経路など、プライバシーや安全に関わる情報も含まれている。

Day2-B

研究者への啓発・意識醸成

研究者が主体的に研究データの管理・利活用に取り組むようになるための支援を考える

研究データの管理や公開、利活用は、そもそも研究者にとって、どんなメリットがあるのか？
ちゃんとやらないことでどんなリスクやデメリットがあるのか？

まずは我々支援者が、それらを理解し腹落ちさせるところから。そこからどんな取り組みをすればよいのか考える。

■ 進め方の例

1. 適切なデータ管理をすること・データを公開することのメリット(研究者にとって/大学にとって/社会にとって)、逆にちゃんと管理できていない場合のデメリットやリスクについて、具体的に(できれば具体例を)出し合う。
2. 研究者が、何を負担に感じているか、何に不安を感じているかについて、具体的に出し合う。
3. あまり出てこないようだったら、AIに答えさせて叩くのも可
4. メリット・デメリット・リスクが腹落ちしたら、それを研究者に理解してもらうための方法や支援策を考える。具体的な啓発コンテンツを作成するもよし、アイデアをとにかくたくさん出すでもよし。

達成目標:

- ・ 腹落ち！研究データの適切な管理や公開のメリット等を自分のことばで研究者に伝えられるようになる。
- ・ 自大学でやりたい啓発や支援のアイデアを3つ持ち帰る。

注意点・備考:

- ・ コンテンツとしての成果物は求めない。

適切な研究データ管理を行うことのメリット

研究の 効率化

- 適切な研究データ管理による、円滑で効率的な研究遂行
→研究時間や資源の節約
- セキュリティやデータ消失のリスク回避

助成金獲得、 共同研究推進

- 適切なDMPの作成・実施により、資金提供元の要件を充たす
- ポリシーとこれに従った適切な研究データ管理の実施により、国内外の研究機関や産業界との共同研究の要件を充たす

研究倫理の 確保

- 10年保存、根拠データの開示への対応
- 研究の再現性の確立、研究データや研究記録の正確性・完全性・信頼性の保証